

## 今、中国西部地域で求められる研究成果

### 国連の2030アジェンダと国際共同研究所

2015年開催の「国連持続可能な開発（発展）サミット」は全会一致で、人間、地球及び繁栄のための2030アジェンダを決め、「持続可能な開発（発展）目標（SDGs, Sustainable Development Goals）」を提起しました。SDGsの目標は、「貧困・飢餓」「格差」「気候変動」「エネルギー」「平和」などに及んでいます。SDGsの達成にいかに関与するのか——島根大学として考え、実践すべき課題です。



当研究所の開設当初からの目的は、このSDGsの学問的遂行と期せずして一致しています。研究所は、一貫して「気候変動・環境」や「格差・貧困」問題に取り組み、中国の奥地に「持続可能な発展」の力量を育ててきました。研究所が国連のSDGs達成に一層貢献することが期待されます。

日本側顧問 保母 武彦

### 「日中国際学術セミナー」から見る注目課題

当研究所では、2005年から13年間に渡って日中国際学術セミナーを日中交互に開催しており、2017年で15回目を迎えました。各回のセミナーでは、「日中の条件不利地域における持続可能な発展」というメインテーマを軸に、様々な分野から報告がなされています。これまでの報告テーマを振り返ると、初期の「生産力の向上」や「貧困撲滅」という視点から、「荒漠化防止」や「環境教育」などの自然保護、「污水处理」や「自然エネルギー」などの具体的技術による人間の営みと自然の共生を重視するテーマへと広がりを見せています。これは、中国の経済成長に伴う政策や人々の意識の変化の表れであり、当研究所が課題とすべきテーマが拡大していることを示しています。

交流を通じて、新たな共同研究の開始が期待されます。セミナー及び共同研究への皆様のご参加をお待ちしております。

※詳細はHPで <http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/topix.html>



2017年度 第15回セミナーの様子  
(於：寧夏大学)

## 寧夏の研究者に聞く中国西部の課題

寧夏を主とする中国西部地域の課題について、寧夏大学農学院生態研究センターの宋乃平教授に伺いました。（インタビュアー：田中研究員）

### ●全体的傾向について

私の専門は生態環境の再生なので、その視点から見れば、封山禁牧（自由放牧を禁止する政策）や生態移民（生態が脆弱な地域から住民を集団移住させる政策）などによって生態環境の改善は進んできている。その一方で、生態移民後の人々の生活や就職、教育などには問題も発生しており、支援が必要である。



### ●求められているのは技術

現地が現在求めているものとしては、生態保護や環境保全、農業生産などに関わる具体的な技術だと思う。例えば農村におけるごみ処理技術など。

近年「食の安全」が叫ばれており、多くの自治体や生産者が生産状況の改善に取り組んでいるが、市場規模が大きいだけに、社会全体の意識がそこまで高まっていない印象。「有機農業」の推進も、実際には減農薬程度にとどまっており、実用化にはまだ遠く、技術的な研究成果が求められている。

## 中国で発表された学術論文を日本語に翻訳しています

### ●今年度の翻訳論文（一部）

- 「封育政策が寧夏における荒漠化草原土壌の物理的性質及び有機カーボンに与える影響」
- 「民族地域における貧困解決メカニズムの実施とその効果及び問題—寧夏永寧県閩寧鎮を例として」
- 「都市と農村の収入差と新型都市化発展に関する動態相関分析」
- 「中国西部地域における人口年齢構造の変化が経済成長に与える影響」

※詳細はHPで <http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/honyakuichiran.html>

### ●当研究所の中国国内定期購読雑誌

- 『農業経済』 『農業資源と環境学報』 『寧夏社会科学』 『西北農林科技大学学報』 など
- ※目次を随時HPに掲載しています。ご利用にはパスワードが必要ですので、下記までお問合せください。

当研究所では、中国で発表された学術論文の日本語訳を関係研究者に提供しています。過去に翻訳した論文のタイトル等をホームページに掲載していますので、ご入用の方は下記連絡先までお知らせください。ご希望論文の翻訳も承りますので、お気軽にご相談ください。